

Close-up

院内ボランティア
「グリーンはあと」活動20周年

◆ヘルシーリビング
小児がんのはなし

◆QQ車
5周年を迎えた「くらちゅう寄席」

◆トピックス
わが街健康プロジェクト。
ー「転院」についてサポーターと意見交換

◆倉中探検隊
四肢専門 MRI

◆院内散歩
セントラル・パーラー

この冊子は、倉敷中央病院をご理解いただくとともに、皆さま方とのコミュニケーションをはかるためのものです。皆さまと当院を結びかけはしとなるように、「Kニュース」と名付けました。

CONTENTS

ボランティア

倉敷中央病院では、平成9年10月より患者さんに安心して外来受診をしていただけるよう、「病院ボランティア」の活動を開始し、今年で活動20周年を迎えます。地域に開かれた病院としてボランティアの皆さまの温かいお気持ちと、貴重なお時間を提供していただき、患者さんに寄り添った活動をしていただいております。

「病院ボランティア」とは、病院内で職員と協力して、患者さんに少しでもよい療養・受診をしていただけるように、自発的に活動して下さる方のことです。病院の趣旨を知っていただき、地域と病院との橋渡しができる楽しい活動です。また、その活動を通して「自ら進んで社会的貢献することの喜び」と、「患者さんからいただく活力」を感じていただくこともできます。

倉敷中央病院ボランティアは、「グリーンはあと」と呼びます。活動中、ボランティアは「グリーンのエプロン」を着用しています。

「グリーンはあと」の主な足跡

平成 9年10月	ボランティア活動開始
平成13年	ボランティアコーディネーター専従配置
平成16年	日本病院ボランティア協会加入
平成22年	ボランティアリーダー会立ち上げ
平成24年11月	ソロプチミスト日本財団の推薦で 社会ボランティア賞受賞
平成27年12月	倉敷市環境学習センター主催 「緑のカーテンコンテスト」で優秀賞受賞

ボランティアについて 3

クローズアップ
院内ボランティア
「グリーンはあと」活動20周年 4

ヘルシーリビング
小児科
部長 今井 剛 10
小児がんのはなし

QQ車
5周年を迎えた「くらちゅう寄席」 13

トピックス
わが街健康プロジェクト。
- 「転院」について
サポーターと意見交換 14

倉中探検隊
四肢専門MRI 16

院内散歩
セントラル・パーラー 18

当院のボランティア活動は1997年、勤務していた元看護師ら5人で始めました。発足当初から活動する池田小枝子さんと、2017年に加わったばかりの岸田芳江さん、当院患者・職員サービス室の三宅優子ボランティアコーディネーターの3人に、それぞれの思いを聞きました。

Q 始めたきっかけは

引越して初めて倉敷市に来ました。グリーンはあとの手芸サークルが作成するベビー服が紹介されているテレビを見て、「私もやってみたい!」と思い、参加の申し込みをしました。



岸田芳枝さん

Q 活動していて感じること

メンバーで作った医療機器のカバーやがん患者さんの帽子などが実際に利用されているのを聞くと、うれしい気持ちになります。手芸の知恵が集まっていて、困ったことがあっても他のメンバーから何でも教えてもらえ、勉強にもなっています。なにより、グリーンはあとの雰囲気が好きで、活動をするこゝと自体がすごく楽しいです。

Q 今後やってみたいこと

まだ始めて3ヶ月くらいなので、まずは色々勉強をしないとと思っています。これまでの伝統を吸収しながら患者さんに喜ばれるようなことをしていきたい。

Q 始めたきっかけは

倉敷中央病院退職後、ボランティアはどう?と声をかけてもらったことです。

Q 20年を振り返ると

化学療法の副作用で髪の毛が抜けるがん患者さんの帽子を作る際は、他施設から帽子の型紙を取り寄せて作製方法を学ぶなど、患者さんの気持ちに寄り添ったものを作れるように皆で考えました。ソロプチミスト日本財団の推薦による「社会ボランティア賞」の受賞も良い思い出です。

Q 今後やってみたいこと

始めた当初は病院の職員と間違えられ、待ち時間が長いなどとお叱りを受けることもありましたが、今では「ボランティアさん、ありがとう」と感謝の言葉をかけられることもあります。私自身もこの活動が好きだから、20年続けて来られました。興味を持たれた方、分からないことは何でも教えることができるので、ぜひお越しください。



池田小枝子さん

Q ボランティアを担当されたのはいつからですか

2012年からです。それまでは当院の外來で事務をしていました。メンバーの皆さんに助けられることも多く、感謝しています。

Q グリーンはあとの特徴を教えてください

登録されているボランティアさんの稼働率が9割超と、多くの方が活動に参加されていることです。11のサークルがあり、活動

は充実しています。

Q 活動で変化はありましたか

東日本大震災以後、社会的な意識の変化もあったためか、比較的若い世代の方が増えました。これまで培ってきた伝統と新しい視点が融合し、さらに良い活動ができています。新しい方が輪に溶け込まれるのも早いです。

Q 今後どのような活動をしていきますか

続けてきた「患者さんに寄り添ったボランティア活動」を絶えることなく継承・継続していきたいです。

三宅優子
コーディネーター

2017年7月現在で「グリーンはあと」には67人が所属し、外来案内や手芸、園芸など11のサークルに分かれて活動しています。

グリーンはあと

♥サークル紹介♥

◆園芸サークル

9棟屋上庭園や外来化学療法センター横の庭に、季節ごとに色とりどりの花植えや樹木の剪定などを行い、入院患者さんやご家族に憩いの空間を提供しています。



◆担当者から

内藤文雄さん：「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられ、うれしく思う。次の世代にも園芸の技術を伝えていきたい。

◆赤ちゃん同窓会

2006年より毎月第4土曜日に開催。看護師が中心で行う、当院で生まれた生後3ヶ月の赤ちゃんとお母さん方の集いで、会場設営や片付け、一緒に来られる兄弟の遊び相手などのお手伝いをしています。



◆どんぐりの会

2008年から偶数月の第2土曜日に活動。当院NICUを退院して2歳になったお子さまやご家族が集まる会で、看護師や保育士らと一緒に会場の準備・飾り付けしたり、子どもたちと一緒に遊んだりします。

◆担当者から

岡桂子さん：「子どもが私の顔を覚えてくれることもあります。子どもが好きなので楽しく活動しています」。



◆外来フロア

ボランティア発足当初から続いており、午前中に活動しています。中央玄関ホールで外来を受診される患者さんに、笑顔と温かい言葉で病院内施設の案内のほか、車椅子の介助や自動受付機の使い方などの説明などをしています。



◆担当者から

菅まゆみさん、風早由美子さん：「患者さんから『緑のエプロンを見るとホッとします』と声を掛けられるなど、活動中に心が温かくなることもあります」。

◆病棟ボランティア

入院病棟での患者さんの車椅子でのリハビリ送迎、清拭用おしぼりの準備、看護師のお手伝いなどをしています。

◆担当者から

国崎康子さん：「患者さんから『ありがとう』などと声を掛けられることも増え、ボランティア側も元気をもらっています」。



◆医療情報の庭（患者さん用図書室）

医療情報の庭には、医療の専門書をはじめ、病気予防、看護・介護などの本や雑誌があります。ボランティアの方の運営で、平日9～16時に本を探すお手伝いなどをしています。

◆担当者から

井上純子さん：「読みたい本の場所が分からず困っている人、病気が心配な方の不安が少しでも軽くなるようにしていきたい」。



◆緩和ケアボランティア「ふあみーゆ」

2015年1月より週1日、緩和ケア病棟で活動。サークル名は「ふあみーゆ」で、フランス語で家族を意味しています。研修を経たメンバーが、生け花や季節ごとの病棟の飾りつけなどを行っています。医師や看護師などの医療スタッフ



だけでなく、ボランティアの方もチームの一員として患者さんやご家族を支援いただいています。

◆担当者から

西藤佳子さん：「飾り付けをしていると患者さんやご家族から『きれいですね』と声を掛けられることがあります。今後もさまざまな活動をしていきたいです」。

◆手芸

2006年11月から週2回の活動。院内の病棟の要望や患者さんの声に応じ、院内を明るくする壁飾りや病気に配慮した生活用品など、約10年間で2,500点以上を作成。産まれてすぐに亡くなった赤ちゃんを包み込むためのエンゼルブティック（小さいベビー服、スタイ、ぬいぐるみ）も制作しています。



◆担当者から

手芸サークル開始当初から活動している池田雅子さん：「患者さんからの反響が活動の励みになっています。患者さんが喜ばれるように今後も作成していきたい」。

グリーンはあとの仲間を募集しています

- ①倉敷中央病院ボランティア事務局に、電話でお問合せください。
- ②来院いただき、簡単な面接を行います。活動内容・曜日・時間のご希望、条件を満たしているかなどについて相談し、活動開始日時を決定します。
- ③活動開始前に、健康診断とオリエンテーションを受けていただきます。

* 倉敷中央病院の概況説明

* 看護師による、「患者さんとの接し方」・「歩行の介助」・「車椅子での移動方法」の実地説明

* 病院ボランティアの心得・活動の基本動作の説明

- ④倉敷中央病院の「ボランティア仮登録」を行い、「誓約書」を書いた できます。活動開始日より、15時間は研修期間とし、その後ボランティア会員登録について相談します。ボランティア会員登録後は、ボランティア保険に加入していただけます。（費用は、病院負担。駐車場も病院負担です）

詳しくは ▶ 倉敷中央病院ボランティア事務局086-422-0210（代表） 平日の9時～16時の間にご連絡ください

◆ひまわりの会

2010年から月に2回、院内学級や病棟の入院患者に紙芝居や絵本、歌などを披露しています。メンバーが交代で紙芝居と絵本を複数準備し、リハーサルもして題材を決めています。



◆担当者から

杉本小銀さん：「児童から折り紙などのプレゼントもあり、元気をいただくこともあります」。

◆生け花（月に1度活動）

2014年4月からスタートし、当院の総合案内や入退院支援センターのカウンターなどに彩りを添えています。



◆担当者から

佐藤真知子さん：「どの角度から見てもきれいで、病院の中でも季節を感じられるような生け花を続けていきたい」。

◆絵手紙

2016年11月から週に1度、緩和ケア病棟で開催しています。絵手紙に自分自身への励ましや家族への思いを表現してもらいます。



◆担当者から

吉田信子さん：「患者さんや家族が笑顔になって作成し、完成品を病室に飾ったりしてもらっているのがうれしい。患者さんが思いを表現できるように活動をしていきたい」。

小児がんのはなし

小児科

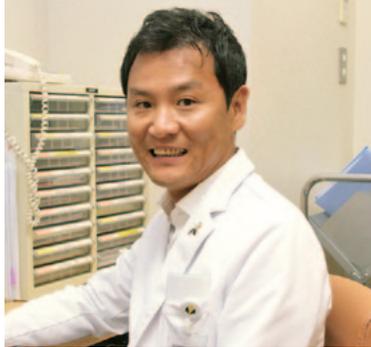
部長 今井 剛

小児がんとは？

子どもがかかるさまざまな悪性腫瘍（がん）の総称です。がん全体の1%にも当たらないくらいいますが、5歳以上の子どものもので、

死亡原因を見ると、事故などの病死以外の原因を除けば、がんが死亡原因の1位です。

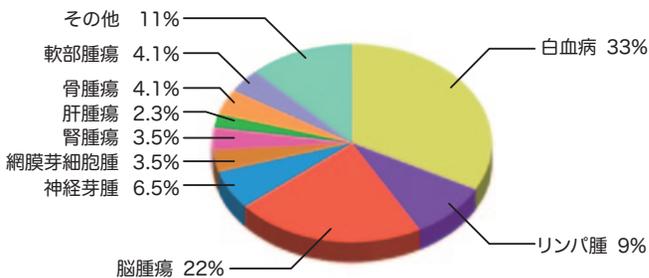
主な小児がんは、白血病、脳腫瘍、リンパ腫、神経芽腫、網膜芽細胞腫、腎芽腫（ウイラムス腫瘍）、肝芽腫



学的に「癌」と「肉腫」の二つに大きく分けられます。たとえば、発生場所が胃の表面の粘膜（上皮）では「胃癌」で、筋肉など深い場所の場合は「胃の平滑筋肉腫」と呼ばれます。「小児がん」の発生頻度の上位である白血病、脳腫瘍、悪性リンパ腫、神経芽腫、ウイラムス腫瘍など、広い意味ではすべて「肉腫」に属します。

上皮由来の「大人のがん」が比較的見えやすい表面から発生するのに比べ、「小児がん」のほとんどが、深いところから発生します。そのため症状が出にくく早期発見が難しいといえます。

しかし幸いなことに、「小児がん」には化学療法、放射線療法に極めて高い感受性を持つという大きな特徴があります。過去40年の



小児がんの割合

資料：国立がん研究センター 小児がん情報サービス

間に「小児がん」の治療は、目覚ましい進歩を遂げました。外科的治療、放射線療法、それに化学療法を加えた集学的治療によって、「小児がん」と診断された子どもたちの70～80%は病気に打ち勝って生存できる時代になりました。

だからこそ、「小児がん」の子どもたちは、「小児がん」の治療に習熟した「小児血液・がん専門医」が治療しなければならぬといえます。

どんな症状が出ますか？

初期は発熱、元気がない、腹痛などが多く、かぜや便秘と言われることは珍しくありません。万が一、これらの症状に加えて、口の粘膜からの出血や皮膚の出血斑、歩かない、手を使わないといった

などです。「芽腫（がしゅ）」と呼ばれるがんの原因は、胎児の体の神経や腎臓、肝臓、網膜などになるはずだった細胞が、胎児の体ができあがった後も残り、異常な細胞（がん細胞）に変化して増えた結果と考えられています。大人のがんとは異なり、がんの発生原因に生活習慣はまずありません。

わが国では年間2,000～2,500人の子どもの小児がんと診断されています。子ども1万人に約1人の割合です。また、10代の未成年者に発生するがんの多くが小児がんと診断・治療されています。

大人のがんとの違いは？

まず「肉腫」が多いことが特徴です。悪性腫瘍（がん）は、病理

関節痛・骨の痛み、嘔吐を繰り返すことなどがあるときは、病院を受診しましょう。小さなお子さんのお風呂やお着替えの時に、お腹のしこりなどに気付いた時も受診をお勧めします。

治療方法は？

小児がんの種類や進行度によって手術療法（腫瘍摘出術）、放射線治療、化学療法（抗がん剤）をそれぞれ組み合わせで行います。多くの白血病や悪性リンパ腫では、抗がん剤だけで治療できます。固形がんでは、がんを切り取る手術療法が必要ですが、抗がん剤が効くタイプが多いので、ほとんどのケースで化学療法を行います。化学療法でがんを小さくしてから手術する方法（術前化学療法）と、



QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごとを運ぶ(お伝えする)コーナーです。

5周年を迎えた「くらちゅう寄席」

—グループいっせきの皆さんが大奮闘

平成25年から始まった「くらちゅう寄席」を6月3日に開催しました。会場のセントラル・パーラーは、立ち見の方が出るほどの満員御礼で、笑顔と笑い声であふれていました。



5周年を迎えた今回は記念公演と銘打ち、寄席に加えて「沖縄三線歌声放談」と「腹話術」、「大喜利」と内容が盛り沢山でした。

出演されたのは50年近い伝統と高い技量を誇る「グループいっせき」。6代目桂文枝師匠が関西大学在学中に創部した落研の後輩達によるボランティアグループで、半年先まで予約が一杯という関西地区では人気のグループです。

トップバッターは女性演者による沖縄三線の賑やかな歌声放談。独特の節回しの沖縄民謡に、会場では一緒に歌う人や手拍子を打つ人も出て、一気に盛り上がりました。

寄席は上方古典落語の十八番である「延陽伯」「動物園」「代書屋」、腹話術ではター坊という名前の男の子の人形と演者が絶妙な掛け合いを披露されました。最後の大喜利は出演者5人が即興の言葉遊びを観客と一体で繰り広げられました。



女性患者さんは「お腹の底から笑え、病気であることを忘れて本当に楽しくなりました」と話されていました。

この日は開演に先立ち、沖縄三線の女性が緩和ケア病棟で、希望された患者さんの部屋を訪問して歌を披露し、ご家族も喜ばれていました。

具体的な治療期間は？

たとえば、子どもに最も多い急性リンパ性白血病の場合には、まず骨髄の中から、顕微鏡では見つけられないくらいまで白血球の細胞を減らす「寛解導入療法」を行います。さらに白血病の細胞を減らすための強化療法や地固め療法、

手術後に化学療法を行う方法(術後化学療法)とがありますが、術前も術後も行う場合が多いでしょう。取り切れても、再発予防のため術後化学療法がとても有効です。小児がんは抗がん剤が効きやすいですが、一回だけでは不十分のため、化学療法を通常何度も繰り返し返します。行う回数は、がんの種類や病気の進み具合などでおおよそ決まっています。

長期のフォローアップが必要と聞きます

小児がんは、治療するようになってきた一方、お子さんが発育途中であることなどから、成長や時間の経過に伴って、がんそのものの影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症がみられます。これを「晩期合併症」といい、小児がん特有

中枢神経再発予防までを入院で約1年間行います。その後も約1年間の維持療法を外来で行い終了となります。

悪性リンパ腫の場合にも同じような治療法を行うタイプがありますが、急性骨髄性白血病の場合は、維持療法はほとんどしません。固形がんの場合は約6ヵ月から1年で終了することがほとんどです。

の現象です。

そのため、治った後も年齢に応じた長期のフォローアップが必要で、小児科医をはじめとして、各診療科の医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、心理士、各種団体などが協力して、晩期合併症やさまざまな心理社会的な問題に向き合う支援をしています。

すでに命だけが助かればよいという時代は終わりました。治療を受ける子どもたちはもちろん、両親、きょうだいにとっても家族力が崩されるすさまじい体験となりますが、なんとか困難を乗り越えてもらい、健康な大人としての社会生活を送れることが、私たち小児がんの医療に携わるものからの願いです。



わが街健康プロジェクト。

「転院」についてサポーターと意見交換

「わが街健康プロジェクト。」(わがプロ)の第6回サポーターズミーティング(SMTG)が4月27日、倉敷市民会館で開かれました。SMTGは講演会に3回参加して地域医療を「学ぶ」ステップを達成したブロンズサポーターが参加の対象です。今回は「転院」についてサポーター55人と共催医療機関の医療ソーシャルワーカー(MSW)らがそれぞれ5〜6人の10グループに分かれて意見交換しました。MSWによるレクチャーでは、転院が必要な背景を紹介。高齢者の増加や人口減少する今後の情勢

しました。倉敷リバーサイド病院人工関節センター 川口洋先生は「病気とともに生きる」「老いを受け入れる」などの考え方が大切と述べられ、過去のつらい痛みは引きずらず、できることを探して今を楽しく生きましようと呼びかけられました。玉島中央病院の影山尚也 健康運動指導士は、ウォーキングには生活習慣病の予防や改善につながる医学的効果などがあると説明し、あごを引いて背筋を伸ばすなどウォーキングのポイントも紹介されました。



川口先生



影山先生

わが街健康プロジェクト。

次回第16回講演会は **参加無料**
2017年8月29日(火) 14:00~
倉敷市民会館 大会議室2F

講演① 「在宅医療を知っていますか？」
つばさクリニック 理事長 中村 幸伸 先生

講演② 「『最期まで家で過ごしたい』を考える
~在宅療養という選択肢~」
倉敷中央病院 医療福祉相談室 室長 曾我 比呂子 先生

医療ソーシャルワーカー

MSW : Medical Social Worker

社会福祉の専門性・視点に基づき、患者・家族の自立を支援し、社会復帰や社会生活の継続のお手伝いをする専門職。

こんなときご相談ください

- ・医療費や生活費が心配
- ・病気や療養について悩みがある
- ・家族、仕事、生活面で不安がある
- ・退院と言われたが、自宅生活できるか不安

では、限られた医療資源の中で必要な医療サービスをすべての人が受けられる体制にしていく必要があります。手術を中心とした施設と、状態が落ち着いた後にリハビリなどを行う施設など、機能分化を推進する必要があると説明しました。意見交換では、「同じ病院ですつと診てもらいたい気持ちがある」という声もありましたが、転院の必要性の話が深まるにつれ「急性期病院にずっと入院していれば、次に治療が必要な人が入院できなくなる」「なぜ転院が必要か知らない人に話してみたい」などの意見が挙がりました。

第15回講演会には

220人の市民が参加

5月23日に倉敷市民会館で開催

血糖値測定や各種相談コーナーを設けた「健やかブース」も講演会当日の13時から50分間開催しています。当院や共催医療機関などに配置するチラシが申し込み用紙となっており、問い合わせはわがプロ事務局(倉敷中央病院地域医療連携室・TEL 086-1422-15218)までご連絡ください。

第17回講演会は11月28日(火)の開催を予定しています。詳細は次回10月に発行するKNESW S33号でお伝えします。

わがプロカウンター

参加延べ人数	2,875人
ブロンズサポーター (講演会3回参加)	212人
ゴールドサポーター (講演会6回+ミーティング2回参加)	95人

倉中探検隊



「写真②のかなり小さなMRIは通常のMRIと比べて何が違うのか？」を、中田和明・MR検査室長に聞きました。



中田 和明 室長

Q. この機器は何ですか？

A. 四肢専用のMRIです。直径18センチの筒に手足を入れるだけで、ひじから先やひざから下を撮影できます。画質は全身用のMRIと変わりありません。2014年8月から稼動しており、中四国地方では初めての導入でした。

Q. どのようなメリットがありますか？

A. 全身用のように筒に入る必要がないので閉塞感がなく、音も小さいので閉所恐怖症の方も安心して検査を受けられます。子どもの場合は保護者の方が付き添うこともできます。1箇所の撮影は30～40分で、撮影部位以外は体を動かしても大丈夫です。

Q. 効果は？

A. 通常のレントゲン検査では見つけにくい骨折などの疾患を見つけるときなどに効果を発揮しています。

Q. どんな診療科で使われていますか？

A. 整形外科や形成外科、リウマチ膠原病科などで活用されています。地域の医療機関からの紹介で撮影も行っています。

まだまだ
知りたい!
MRI
のこと

CTとは何が違うの？

CTはComputed Tomography(コンピューター断層撮影装置)の略称で、違いは画像を撮る手段がCTは放射線(X線)、MRIは強力な磁石と電波を利用することです。CTは撮像時間が短く、広い範囲の検査や肺の検査に適しています。MRIは撮像時間が長くかかりますが、特に1つの部位(臓器)を詳しくみるのに適しています。

当院は患者さんへ安心・安全な医療を提供できるよう、医療設備の充実にも取り組んでいます。このコーナーでは当院の医療機器を紹介します。

四肢専用MRI

MRIは生体内部の情報を画像で見ることができる装置です。Magnetic Resonance Imaging(磁気共鳴画像)の略称で、強力な磁石と電波を使って体内から必要な情報を集めてコンピューターで画像化し、脳や脊椎・脊髄、関節などの疾患発見に大きな力を発揮しています。



写真①のように筒の中に全身が入って撮影します。経験された方はご存知かと思いますが、狭い筒の中で大きな音がする空間に、一定時間は仰向けのまま静止する必要があり、苦痛に感じられる方もいるかと思いますが。



大きさや形は異なりますが、写真②の医療機器も、機能は同じMRIです。

MRIって何？

MRI検査は非常に強い磁石と電波を利用して、体内の水素原子が持つ磁化を画像化するものです。さまざまな角度の画像を撮影でき、血液や水分の分布状況や機能情報も画像として得ることが出来ます。

なぜ大きな音がするの？

「フレミングの左手の法則」がイメージしやすいですが、MRIの筒の中にあるコイルに電流が流れると「磁場」と「磁力」が発生します。この磁力が装置のコイルを伸ばしたり縮めたりして振動し、その振動音が騒音に聞こえます。

◆ セントラル・パーラー ◆



竹の林に水のせせらぎがやさしく響くセントラル・パーラーは、入院患者さんの憩いの場として親しまれています。

亜熱帯植物のみどり溢れる温室に対して、パーラーは、季節の移ろいを感じていただける和の空間になるように設計されています。竹の林は外のセントラル庭園へと続き、さざんか、しだれ桜、つつじ、もみじがあり、お雛さまやクリスマスツリーなども飾られ季節を楽しませてくれます。

また、静かな水の流れは、秘めたる生命の強さを思い出させてくれるようです。泉の石組みは、イサム・ノグチ氏のパートナーであった、和泉正敏氏の作です。

パーラーでは毎月、コンサートが開かれるほか、最近では年に1度、「くらちゅう寄席」と題した寄席（本誌13ページで詳細を紹介）も開催しています。



院内散歩

当院には温室や多数の絵画など、患者さんに心安らぐひとときを過ごしていただけるようにと、さまざまな施設・装飾が施されています。このコーナーでは数々の憩いのスポットをご紹介します。



創立者の大原孫三郎は、病院の設計理念のひとつに「病院くさくさない明るい病院」を掲げました。

倉敷中央病院には、いくつものアメニティスペースが設けられています。噴水の水音が聞こえ、明るい日差しが降りそそぐ温室。風を感じられるセントラルパーラー、そこで開催されるコンサート。心を和ませてくれるくつろぎの空間に、多くの方が自然と集まってきます。患者さんへの優しい環境づくりは、当院にとって、大切な医療の一環です。

を和ませてくれるくつろぎの空間に、多くの方が自然と集まってきます。患者さんへの優しい環境づくりは、当院にとって、大切な医療の一環です。

倉敷中央病院の役割は？

当院は地域の診療所や病院から紹介のあった緊急・重症な患者さん、救急搬送された患者さんを中心に、入院や手術など高度で専門的な医療を24時間体制で提供する急性期病院です。症状が安定されましたら、お近くの医院をご紹介させていただきます。紹介元の先生よりご依頼があれば、いつでもフォローいたします。

倉敷中央病院



地域医療機関・
救急を支える病院

かかりつけ医



専門的な検査や治療が必要なときは
倉敷中央病院へ



病状が安定したら
かかりつけ医へ

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を持つことは患者さんにとって大きな利点があります。かかりつけ医は当院の医師と違う視点で病気を管理することができ、十分な時間を取っての相談も可能です。入院や手術など高度で専門的な医療が必要と判断された場合、紹介状を作成されますので当院を受診してください。当院での検査や治療が終了しましたら、当院主治医からかかりつけ医に治療結果を報告しますので、かかりつけ医で継続した治療を受けていただけます。



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

〒710-8602 岡山県倉敷市美和1丁目1番1号
TEL.(086)422-0210代 FAX.(086)421-3424
<http://www.kchnet.or.jp>